

評価結果通知一覧

申請者名	テーマ名	評価結果	評価における主な意見等
<p>群馬県桐生市 市長 荒木 恵司 国立大学法人群馬大学 学長 平塚 浩士</p>	<p>次世代モビリティの導入による持続可能な地方都市モデルの構築</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ロードマップが細かく練られており、地域企業とも連携が進み、事業化にも期待できる点は評価できる。協働体制構築も進み、統括プランナーのリーダーシップや熱意ともに評価できる。一方で、今後想定される様々な課題やモビリティ変化のシナリオに対応した柔軟な仕組みづくりについても検討する必要がある。 ・様々な形のモビリティを一緒に活用することは、面白い取り組みであり、非常に期待している。一方で、5Gやリモートセンシング、AI等の他の技術の展開について、他の地域で議論される中、アカデミアや研究者へのアプローチが見えなかった。技術間連携や共創することで新たな横展開にも期待する。
<p>新潟県佐渡市 市長 渡辺 竜伍 国立大学法人新潟大学 学長 牛木 辰男</p>	<p>生物多様性と農業技術革新が共存するエコロジカル・コミュニティの実装に向けて：里山創生「佐渡モデル」の構築</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のためという熱意や、地域の巻き込み、それらをまとめていくプロセスは高く評価できる。一方で、持続的な運営の基盤としての仕組みまでは完全に整えられていない。今後は、地元民も運営に参加することを含め、持続可能な産業としての農業に携わっている方々を巻き込みながらの運営体制づくりに期待する。 ・農業の効率化と自然科学・生態学を合わせたソリューションを目指すという取組は面白い発想であるが、事業化のために、観光や防災、教育などの事業者も巻き込んで、それらに必要な技術も盛り込むなど、今後の事業の広がりにも期待する。 ・佐渡地域発ベンチャーとの連携にも期待したい。
<p>大阪府大阪市 市長 松井 一郎 (公立大学法人 大阪) 大阪市立大学 理事長 西澤 良記</p>	<p>子どもウェルネスによるコミュニティ・デザイン</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な目的を持った企業が参加して将来のプロモーションに繋げるため等、企業のモチベーションが高いところは評価できる。ただし、次年度以降として、各研究で地域と企業の間関係をどのように継続するのが担保されていない。参加する企業のビジネスとなるかについても検討する必要がある。 ・本事業で「子どもウェルネス」について取組むとしたときに、「なぜ子どものための活動をするのか」等、住民との対等な立場での対話や協働をもう少し取組み、地域のニーズを測る必要がある。 ・リビングラボのあり方として、地域が自主的に課題解決するために何らかのアクションを起こそうとする場所として機能させるためにもベネフィット（金銭的、行動変容）が必要である。 ・メディアへの発信も検討する必要がある。